FM 受信機 エム・エル・テン・アイ
FM 受信機　エム・エル・イレブン・アイ

ML10i, ML11i

取扱説明書

はじめに

このたびはフォナック社の FM システムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ML10i（エム・エル・テン・アイ）、ML11i（エム・エル・イレブン・アイ）はフォナック補聴器ナイーダ、ミロ、ミロ プラス、オーケー！プラスの UP／SP 専用の Dynamic FM システム受信機で FM 送信機と一緒に使用します。
ご利用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになったあとは大切に保管し、必要なときにお読みください。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

■ 危険

- 分解、改造をしないでください。

■ 警告

- 強い衝撃を与えたり落としたりしないようにしてください。
- ペットのそばやこどもの手の届くところに保管しないでください。万が一、誤って電池を飲み込んでしまった場合、ただちに医師にご相談ください。
- FM 製品で使用する電波（169MHz 帯）は各国の電波法で規制されています。国内で購入した FM 製品を海外で使用したり、海外で購入した FM 製品を国内で使用したりすると電波法違反となるため、ご注意ください。

■ 注意

- 過度の湿気や温度を避けてください。特に夏の時期、窓や車のフロントガラスの近くには置かないようにしてください。

■ その他の注意事項

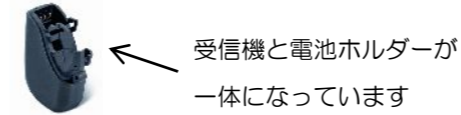
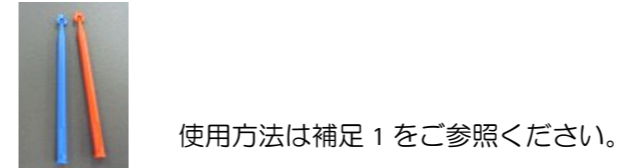
- 受信機を使用すると補聴器の電池から電源供給されます。そのためカタログなどに記載されている補聴器の電池寿命の時間より短くなりますが、補聴器の故障ではありませんのでご注意ください。
- Dynamic FM 送信機 inspiro、DynaMic のマルチ・トーカー・ネットワーク利用中を除き、室内で同じチャンネルの送信機を複数台使用することはできません。干渉ノイズが発生します。
- 使用後のお手入れの際、受信機が接続されたまま補聴器乾燥ケースに入れてください。その場合、必ず電池を取り出して電池ホルダーを開けたままにして乾燥ケースに入れてください。
- 高出力の電気製品が近くにある場合や金属で囲まれた部屋などで使用する場合、FM システムの使用可能距離が短くなる場合があります。
- FM システムはテレビ電波に近い周波数を使用しているため、テレビ放送塔から 1 km 以内の地域で使用した場合に雑音が混入することがあります。
- FM システムをアンテナや受像機の近くで使用した場合に、テレビ画像に乱れが生じる場合があります。その様な場合には送信機をアンテナや受像機から離してください。

1. 本体および付属品

① 受信機本体（専用電池ホルダー一体型）

受信機と電池ホルダーが一体になっています

② 左右識別スティック（青、赤　各 1）

使用方法は補足 1 をご参照ください。

③ 取扱説明書（本書）
④ 保証書（保証期間　1 年間）

2. 接続可能な補聴器

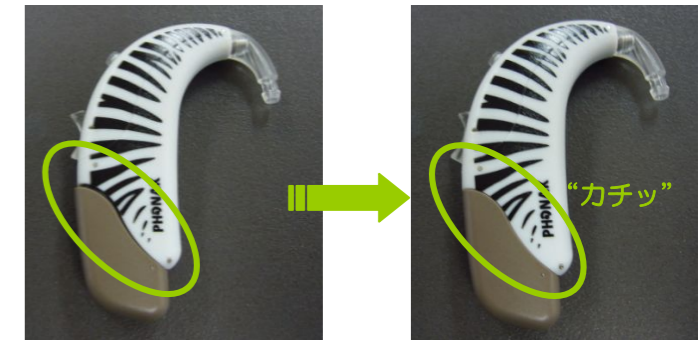
ML10i、ML11i は補聴器と一体型受信機のため、オーディオシューは不要です。

受信機	補聴器
ML10i	ナイーダ UP ミロ UP ミロ プラス UP オーケー！プラス UP
ML11i	ナイーダ SP ミロ SP ミロ プラス SP オーケー！プラス M オーケー！プラス SP

3. ML10i、ML11i の接続

ML10i、ML11i を接続する際は、事前に補聴器標準の電池ホルダーを取り外す必要があります。お求めの販売店までお問い合わせください。

4. ML10i 取り付けの注意

ML10i はカチッと音がするまで、しっかりと押し込んでください。

隙間があります。　　カチッと音がするまで押し込みます。

送信機からの同期操作で MLxi のチャンネルを変更することができます。同期の方法については各送信機の取扱説明書をご参照ください。

5. ML10i、ML11i の使用方法

1. ML10i、ML11i が接続された補聴器の電源をオンにします。EasyFM 機能を利用しない場合は補聴器のプログラムボタンで FM 用プログラム（FM+M）に切り替えます。
2. 話し手は送信機を装着して電源をオンにします。
3. 話し手は普段通りの声の大きさとスピードで話しかけてみてください。聞き手の反応を見ながら送信機から音声がきちんと届いているかどうかを確認してください。FM システムを安定して使用できる距離は約 15 m です。

- ❐ FM+M（エフエム・プラス・エム）とは「送信機からの FM 音声」と「補聴器のマイクロホンからの音声」が一緒に聞こえるプログラムのことです。
- ❐ ML10i、ML11i のデフォルト･チャンネルが送信機のディスプレイに表示されているチャンネルと一致している場合、同期操作は必要ありません。
- ❐ FM システムを使用しないとき、ML10i、ML11i を取り外す必要はありません。

6. チャンネルの変更

フォナック FM 製品には 5 つのチャンネル 91, 92, 96, 98, 99 が登録されています（補足 2 参照）。チャンネルは下記のような場合に変更してください。

- ✓ 使用しているチャンネルで干渉がある場合
- ✓ 隣接室で同じチャンネルを使用している FM ユーザーがいる場合

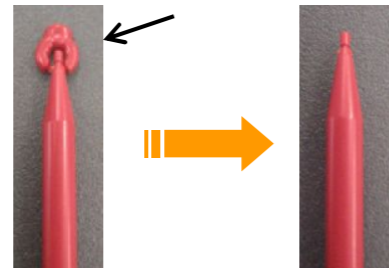
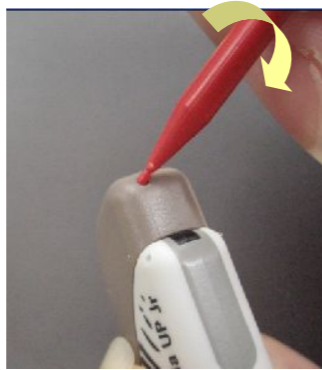
送信機からの同期操作で ML10i、ML11i のチャンネルを変更することができます。同期の方法については各送信機の取扱説明書をご参照ください。

7. 保証期間とアフターサービス

- 不具合がある場合は修理します。
- 本製品の無償保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。
- 無償保証期間が過ぎ、不具合がある場合、有償修理となります。
- 保証期間内であっても､お客様による誤った使用、過失、改造による故障の場合、有償修理となる場合があります。
- 製品に同梱されている保証書に「販売店名」､「お買い上げ日」などが記載されていることを確認し、大切に保管してください。
- 修理を依頼する際、お求めの販売店にご連絡ください。修理の際には保証書が必要となります。
- ご購入後、カラー変更のためのハウジング交換はできません。
- 本製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

補足 1: 左右識別スティックの使用方法

受信機の左右を左右識別スティックで見分けることができます。右耳は赤のスティック、左耳は青のスティックを使用します。以下の写真は右耳用の ML10i とナイーダ UP です。

① スティックの先端部を手で切り取ります。

② スティックの先端部を ML10i、ML11i 下部にある穴に差込み、スティックを回転させます。

③ スティックの先端部が穴に収まります。左右の目印となります。

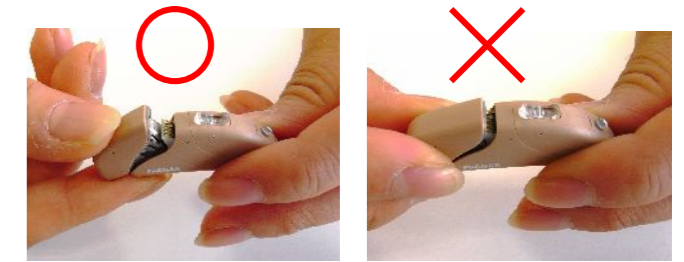
補足 2: FM チャンネル

フォナック FM 製品には干渉の可能性が低い組み合わせの 5 つのチャンネルが登録されています（91、92、96、98、99）。干渉ノイズが発生したり、隣り合う部屋で FM ユーザーがいたりする場合、チャンネルを変更してください。

標準規格	周波数	フォナック登録チャンネル	干渉の少ない条件の良いチャンネル
M01	169.4125	91	96, 98, 99
M02	169.4375		
M03	169.4625		
M04	169.4875	92	96, 98, 99
M05	169.5125		
M06	169.5375		
M07	169.5625		
M08	169.5875		
M09	169.6125		
M10	169.6375	96	91, 92, 99
M11	169.6625		
M12	169.6875		
M13	169.7125	98	91, 92
M14	169.7375		
M15	169.7625		
M16	169.7875	99	91, 92, 96

- ❐ ML10i、ML11i を含む受信機には電源をオンにしたときに起動するチャンネル（デフォルト・チャンネル）が登録されており、標準は 91 チャンネルです。別のチャンネルに変更することもできます。変更希望の際は販売店までお問い合わせください。
- ❐ 送信機にはデフォルト・チャンネル機能がありません。電源をオンにすると、直前に使用していたチャンネルで表示されます。
- ❐ 隣接する部屋で FM システムを使用する場合は干渉の少ないチャンネルを組み合わせて使用してください。例えば隣の部屋が 91 チャンネルの場合、その隣の部屋は 96、98、99 チャンネルから選択します。

補足 3: ML10i バッテリーフォルダの開け方

バッテリーフォルダを開けるときは、下の写真のようにバッテリーフォルダの側面は持たずに、縦面を持って開閉してください。

販売店名

製造販売業

フォナック・ジャパン株式会社
〒141-0031
東京都品川区西五反田 5-2-4
レキシントン・プラザ西五反田
TEL: 0120-06-4079 （お客様相談窓口）
FAX: 0120-23-4080
www.phonak.jp